

# 2026年度 農業生物資源ジーンバンク事業シンポジウム 未来へつなぐ 栄養体遺伝資源

## — 品種開発と地域産業を支える **サツマイモ** 遺伝資源 —

### ■ 開催趣旨

農業生物資源ジーンバンク事業では、食料・農業の将来を支える植物遺伝資源として、種子で長期保存できるものだけでなく、サツマイモ、ジャガイモ、イチゴ、果樹類等のように、栄養体を栽培して維持する作物も多く保存している。本シンポジウムでは、地域産業や消費の面からも関心が高まっているサツマイモを題材に、多様な遺伝資源を利用した品種開発、生産者や企業が展開する地域産業、さらに生産・流通・消費につながる経済活動を紹介するとともに、それらを支える研究基盤としての栄養体遺伝資源の保存と利活用について考える。特に、遺伝資源の安全で持続可能な保存に向けた生体保存や超低温保存等の技術開発から実装までを取り上げ、ゲノム情報や機能性成分等の情報付加による遺伝資源の価値向上と利活用促進、遺伝資源の確実な継承、研究・産業・地域との連携について発信する。サツマイモに関わる研究者、品種育成関係者、生産者、企業、消費者をはじめ、栄養体遺伝資源の保存と利用に関心を持つ多くの方々に現地で参加いただき、遺伝資源の価値を共有する機会としたい。

### ■ 開催日時

令和8年 9月10日（木）午後：講演会 / パネルディスカッション  
令和8年 9月11日（金）午前：ジーンバンク施設見学（希望者）

**参加費 無料**  
施設見学  
先着40名

### ■ 開催場所

講演会/パネルディスカッション：[文部科学省研究交流センター](#)（茨城県つくば市竹園2-20-5）  
\* 事前申込みされた方のみご参加いただけます（定員150名）  
ジーンバンク施設見学：農研機構 遺伝資源研究センター（茨城県つくば市観音台2-1-2）  
\* ジーンバンク施設見学のみのご参加は受け付けておりません

### ■ プログラム

#### 令和8年 9月10日（木）

11:00 開場・受付・ポスターブース公開

13:00～16:00 講演会

主催者挨拶：原田久富美（農研機構理事）

- 金田富夫（JAなめがたしおさい）「焼き芋による地域産業の振興」
- 田口和憲（農研機構）「ジーンバンク事業とサツマイモ遺伝資源を活用した品種開発」
- 榎本 真（カネコ種苗）「サツマイモの育種と国内の遺伝資源について」
- 田中大介（農研機構）「栄養体遺伝資源の超低温保存技術開発」

16:00～16:30 パネルディスカッション

閉会挨拶：柳澤貴司（農研機構）

#### 令和8年 9月11日（金）

10:00～11:00 ジーンバンク施設見学



### 詳細・申込



参加申込締切  
9月4日

#### ■ お問い合わせ先

農研機構・遺伝資源研究センター  
資源保存グループ 田中大介  
E-mail : tanaka.daisuke054@naro.go.jp  
Tel : 029-838-7459

# 講演要旨

2026年度 農業生物資源ジーンバンク事業シンポジウム / 未来へつなぐ 栄養体遺伝資源

## 1 「焼き芋による地域産業の振興」

金田 富夫 | JAなめがたしおさい

葉たばこの裏作として始まった当産地の甘藷栽培は、葉たばこからの転換を契機に、地域農業を支える主要産業へと発展してきた。その原動力となったのが、「おいしさを消費者に届ける」ための焼き芋戦略である。キュアリング・定温貯蔵技術を導入し、品質管理を徹底するとともに、品種リレーによる周年出荷体制を確立。いつ食べてもおいしい甘藷を届けられる産地を目指してきた。さらに、焼き芋を軸とした販路拡大や地域ブランドの形成に取り組み、国内での販売を広げるとともに、海外輸出へと展開してきた。本発表では、焼き芋を核とした地域産業化の歩みと、これまでの挑戦、さらなる発展への可能性を紹介する。



## 2 「ジーンバンク事業とサツマイモ遺伝資源を活用した品種開発」

田口 和憲 | 農研機構

農研機構ジーンバンク事業では、国内外から収集した多様な植物遺伝資源を保存・管理し、研究機関や育種現場への提供を通じて新品種開発を支えています。サツマイモについても世界各地の在来品種や系統を保存しており、病害虫抵抗性、環境ストレス耐性、品質特性などの有用形質を育種に活用するための重要な基盤となっています。これらの遺伝資源は、生産現場が抱える課題の解決や気候変動への対応、新たな需要に応じた品種開発を可能にする貴重な研究資源です。本講演では、遺伝資源の収集・保存から特性評価、育種利用までを一体的に進める研究活動について紹介するとともに、サツマイモにおける遺伝資源活用の意義や、その活用によって実現した品種開発の事例について紹介します。



## 3 「サツマイモの育種と国内の遺伝資源について」

榎本 真 | カネコ種苗

カネコ種苗は、サツマイモの産地向けのポット苗や家庭菜園用など切苗を販売している。農研機構が育成した品種については各メーカーが利用許諾を受けて販売を行っているが、おおよそ同一の品種を販売することになる。当社はオリジナル品種の育成は価値があると考え、食味の優れる品種育成を目的として「シルクスweet」と「栗かぐや」を育成した。

近年、国内ではサツマイモ基腐病の発生や、夏場の高温乾燥による生理障害の発生などが問題となっている。農研機構では毎年の品種育成や多様な遺伝資源の保存がおこなわれているが、様々な問題への迅速な対応が必要な局面において、それらの遺伝資源の利用が重要になると考える。



## 4 「栄養体遺伝資源の超低温保存技術開発」

田中 大介 | 農研機構

農業生物資源ジーンバンク事業では、食料・農業の将来を支える遺伝資源を収集・保存・評価・配布し、研究、育種および産業利用の基盤として維持している。本講演では、栄養体として生体保存が必要なサツマイモ等の農業生物資源を対象に、長期安定保存を支える基盤技術としての超低温保存技術の開発状況と実装に向けた取り組みを紹介する。

